

明治から昭和前期までの研究史の流れの中で大きな足跡を残した先人たちの主な著書や論文を復刻。

# 日本の人類学 文献選集

近代篇 全8巻

山口 敏 編・解説



クレス出版

# 日本の人類学文献選集 近代篇 全8巻

## 第1巻 坪井正五郎・E.S.モールズほか

〔外国人による研究〕  
大森介壺古物編（モールズ）  
日本人の起源とその人種学的要素（ベルツ）  
人種学上アイノノ研究（シーボルト）  
〔坪井正五郎とその時代〕  
**人類学会の設立**  
本会略史（坪井正五郎）  
研究項目  
人類学研究の趣意（坪井正五郎）  
人類学の部門に関する意見（坪井正五郎）

**日本石器時代人論争**  
札幌近傍ピット其他古跡ノ事（渡瀬莊三郎）  
太古の土器を比べて貝塚と横穴の關係を述べ（坪井正五郎）  
コロボックル果シテ北海道ニ住ミシヤ（MS）  
コロボックル北海道に住みしなるべし（坪井正五郎）  
コロボックル果シテ内地ニ住ミシヤ（神風山人）  
コロボックル内地に住みしなる可し（以下坪井正五郎）  
北海道石器時代の遺跡に関する小金井良精氏の説を読む  
小金井博士の貝塚人骨論を読む  
コロボックル風俗考  
石器時代総論要領  
日本石器時代人民論

**調査報告**（坪井正五郎）  
足利古墳より掘出せし人骨、附り数人合葬の事  
伊豆諸島にて行ひたる人身測定成績の一つ  
埼玉県横見郡黒岩村及び北吉見村横穴探究記  
西ヶ原貝塚探究報告  
芝公園古墳発見の人頭骨  
**人種の問題**（坪井正五郎）  
人種問題研究の準備  
日本に於ける雑婚問題  
実際問題と人種の異同

## 第6巻 長谷部言人(一)

〔自然人類学概論〕（昭和2年、岡書院）  
河内国府石器時代人骨調査  
壮丁の身長より見たる日本人の分布  
アイノと日本人との指紋の差異  
日本人頭蓋の地方的差異

**我觀石器時代住民論**  
石器時代人の抜歯に就いて  
石器時代住民と現代日本人  
石器時代人の抜歯に就いて 第二  
石器時代人に外聽道骨腫の見らるゝこと 附鼓上骨  
顔面に赤色附着せる古墳頭骨  
タウングスの類人猿頭骨  
陸前気仙郡大船渡湾附近の石器時代人に外聽道骨腫多し  
陸前大洞貝塚発掘調査所見  
燕形鋸頭  
燕形鋸頭とキテ  
本輪西貝塚の鹿角製鋸頭  
円筒土器文化

## 第7巻 長谷部言人(二)・清野謙次

〔長谷部言人〕  
人類血液の種類と人種  
日本人と南洋人  
〔日本民族の成立〕（昭和24年、中央公論社）  
〔清野謙次〕  
備中国浅口郡大島村津雲貝塚人骨報告  
津雲貝塚人骨の人類学的研究 第二部 頭蓋骨の研究  
津雲石器時代人はアイヌ人なりや  
再び津雲貝塚石器時代人のアイヌ人にあらざる理由を論ず  
日本石器時代人種に就きて  
金石併用時代の人骨

## 第8巻 昭和前期の研究者

**日本列島人の研究**  
複顔孔（赤堀英三）  
日本人の双胎頻度並に其地方別（駒井卓）  
血液型より見たる日本人（古畑種基）  
日本人指紋の統計（須田昭義）  
琉球列島民の身体計測（須田昭義）  
日本人の生体計測学（三宅宗悦）  
アイヌの頭蓋学及骨学（見玉作左衛門）  
**先史学研究**  
日本遠古之文化（山内清男）  
石器時代人の寿命（山内清男）  
日本先史時代に於ける抜歯風習の系統（山内清男）  
又状研歯の新資料とその埋葬状態について（鈴木尚）  
上代日本人脛骨の横断形に就いて（近藤四郎）  
**海外研究**  
朝鮮人と日本人の体質比較（上田常吉）  
東部アジア諸種族の相互關係 男性頭蓋骨の部（今村豊・島五郎）  
朝鮮人の生体計測（小浜基次）  
南支の人種相（金関丈夫）  
海南島東南部漢人の後頭扁平に就いて（金関丈夫）  
蒙古民族（横尾安夫）



第2巻 小金井良精

北海道石器時代の遺跡に就て

顎骨縫際に就て

アイノ四肢骨に就て

本邦貝塚より出たる人骨に就て

アイノ人種に就て

日本石器時代の住民

日本石器時代の住民論追加

原始人類の話

腓骨と脛骨との關係に就て

滑車上孔に就て

河内国南河内郡道明寺村大字国府字乾の石器時代遺跡より

発掘せる人骨

日本石器時代に上犬歯を抜き去る風習ありしことに就て

日本石器時代の人の歯牙を變形する風習に就て

日本石器時代の人の歯牙を變形する風習に就て追加

日本石器時代の埋葬状態

扁平尺骨と巨大腓骨

日本石器時代人骨の研究概要

アイノ民族、其起源、並に他民族との關係

安房神社洞窟人骨

大腿骨類間窩の種差に就て

人類の咬合形式及び其系統發生的意義

日本民族中の南方要素の問題に就て

第3巻 八木奘三郎・足立文太郎

〔八木奘三郎〕

常陸国椎塚介墟発掘報告

〔普通人類学〕(明治38年、博文館)

〔足立文太郎〕

骨学研究

硬口蓋の脈管溝(就中日本人及び「アイノ」)に就て

石器時代人骨に鱗歯を見ることに就て

人類学上生体或は骨格調査に向つての注意

本邦中国頭蓋

日本人の足骨

本邦石器時代住民の頭蓋

本邦人脈管調査第一報―人類学上の關係に就て

本邦人陰茎の包皮に就て

黄色人種に固有なりと称せられたる小児の母斑は白色人種にも亦之を存す

黄色人種に固有なりと称せられたる小児母斑の研究

小児腎部の青斑

日本人の血管

腋臭について

腋臭と疔瘡

ゲーテ賞授与式に於ける挨拶を兼ねての講演

第4巻 鳥居龍藏・濱田耕作・松村瞭(一)

〔鳥居龍藏〕

紅頭嶼の土人は如何なる種族より成る乎

紅頭嶼土人の頭形

紅頭嶼土人の身長と指極

〔紅頭嶼土俗調査報告〕

〔千島アイヌ〕

苗族ノ体質

古代の日本民族移住發展の経路

武蔵野の有史以前

現今に於ける吾人祖先有史以前の研究に就て

有史以前と現今アイヌとの關係

我が国の銅鐸は何民族の残した物か

日本古代の遺跡・遺物に就ての概論

古代の日本民族

〔濱田耕作〕

日本石器時代人民の紋様とアイヌの紋様に就て

河内国府石器時代遺跡発掘報告

薩摩国揖宿郡指宿村土器包含層調査報告

〔松村 瞭〕

東京人類学会々員の頭蓋広狭指示数

越中大境洞窟内発見の人骨

日本人の頭形と其の地方的異同に就て

琉球人の頭形に就て

人類学上より観たる日本民族

台湾蕃族に就て(予報)

下総姥山ニ於ケル石器時代遺跡

第5巻 松村 瞭(二)

〔人種名彙〕(明治41年、丸善)

日本原史時代の人骨  
日本石器時代の主要民族は何処より渡来せりや  
日本古代人種の骨格及歯に於ける病的變化  
日本石器時代人種論に関する三種の学説  
自然科学の見地よりせる日本人種論  
清野研究室の人種研究に就ての回顧

第1巻 モーリス

大森介墟古物篇

總論

理學部教授エトワルト・エス・モーリス撰著

人類及動物ノ本原ニ就テハダヴィンチ氏カ著名ナル生物原種論ノ一タヒ世ニ出テ  
テ以來諸家ノ考フル所盡ク其權ヲ更メ漸次其力ニ由リ太古人種史ノ眞ヲ明ニス  
ルヲ得是ユリシテ人類學、古物學、人類學等ノ合社新誌各處ニ起リテ此學愈其面目  
ヲ新ニスルニ至レリ

抑人類ノ創生ハ從來諸學者只古哲著ハス所ノ古史ニノミ信據シテ之ヲ株守シマ  
カコノ限リアル年代ノ上ニ出ツ可カラスト爲セシカ故ニ二三十年前マテハ世人  
舉テ其創生ノ跡ヲ有史前ニ遡リテ研究セシコトハ猶千七百九十二年ニ西班牙人  
ノ亞米利加洲ヲ領セル證ヲ覓ルト一般最モ無益ヲリト懸想セシナリ  
是ノ如ク世人ノ意ヲ人種ノ大源ニ留メキルコト久シク其變ヲ遡遠ノ年紀ニ成リシ  
ヲ無シト云フ考ハ深ク肺膈ニ銘シテ實ニ之カ爲メ當時此等ノ明証ニ供スヘキ凡  
百有價ノ品物ハ舉テ世人ニ遺棄セラレハニ至レリ豈悲シカラヌヤ是ヲ以テ博士

第5巻 松村 瞭

Y

Yaako, in Croker Island and on Baffles Bay, Northern Territory of South Australia; called also Terrutong.	南お1すとらりあノの1ざ1人海 てりとり1ナルばっふれ2住 ノ沿岸及ビくる1か1島トモ稱 スルモノ。Terrutong トモ セラル。
Yaako-Yaako, east of Lake Victoria in the southwestern part of New South Wales.	や1こや1こ にゆ1 さうす うえ1るすノ西南部ナルジ くとりあ湖ノ東方。
Yabahanas, a subdivision of the Barres; also written Jabaanas.	Barres ノ一族。Jabaanas トモ 書ス。
Yabein, east of the lower Irawadi, Burma.	びるまノいらわち河ノ下流ニ住 スルモノ。
Yacanacas, a subdivision of the Fuegians on Magellan Strait, South America.	南あめりかのまぜ1らん海峡ノ 沿岸ニ住スルふゆ1じあん族 ノ一族。
Yacana-Cunnee, a subdivision of the Patagonians in southern Patagonia, South America.	南あめりかのばたご1にあ地方 ノ南部ニ住スルばたご1にあ 族ノ一族。
Yacanes, in the western part of the island of Basilan, Philippine Islands.	ふいりっびん群島中ばしらん島 ノ西部ニ棲息スルモノ。
Yacariguaras, on the Putumayo, an upper branch of the Amazon.	あまぞん河ノ上流タルぶ1つ1 まいよ1河畔。
Ya-ch'iao Miao, in central Kui-chan, China.	支那貴州省中部ノ住民ニシテ鴉 雀苗ナルモノ是レナリ。
Yacon. See Yakon.	Yakon チ見ヨ。
Yacucaraes, on the Rio Negro, Brazil.	ぶらじるノりお ねぐる1ノ沿 岸。
Yacundas. See Jacundas.	Jacundas チ見ヨ。
Yagnaubs, in the central part of Turkestan, Russian Central Asia.	露領中部あじあノとるきすたん ノ中部。
Yaguas, on the Marañon, the upper part of the Amazon, and its tributary the Putumayo.	や1ぐあ1 あまぞん河ノ上 流タルまらに1らん河畔及ビ 其支流タルぶ1つ1まいよ1 河岸。
Yahgans, a subdivision of the	ていら てる ふえ1ご1ノび1

第7巻 清野謙次

第二篇 自然科学の見地よりせる日本人種論

第一章 人種の差別

一 軟部人類學と硬部人類學

體質人類學者に對する専門的報告書ではなくして、一般知識階級に向つて、私の年來研究して主張する所の生物学を基礎とせる日本人種論を了解していただく爲めには、やはり、人類體質上に於ける種族表徴から解説するのが至當である。それで私は特に此第二篇を挿入する。精密に云ふと人間には一人も同じ者は無い。血縁上、近い者は似て居るが親子兄弟にも若干の差があり、雙生兒と雖も同じものは無い。一種族の中にも個性差はあるが、一種族としては多少共に特殊と目す可き點がある。身體的に種族特徴或は種族差の顯著に現はれる點を根據として、我等は人種の比較を行ひ、人種の異同

## 刊行にあたって

国立科学博物館名誉研究員（人類学）

山口 敏

日本の人類学は、ヒトとその文化を総体として扱う広義の人類学として出発したが、その後、民族学（文化人類学）や考古学が分岐してゆくにつれて、しだいに生物としてのヒトを対象とする自然人類学に重心を移しながら発展してきた。

この文献選集は、明治から昭和前期までの研究史の流れの中で大きな足跡を残した先人たちの主な著書や論文を復刻し、著者別にはほぼ年代を追って全8巻にまとめたものである。

第1巻にはE・S・モールズなど、明治初期の外国人による著作と、日本の人類学の創始者坪井正五郎の人類学や人種に関する啓蒙的な論説や著書と日本石器時代人論争にかかわる諸論文など、第2巻以下には坪井の石器時代人Ⅱコロポックル説に対してアイヌ説を主張した小金井良精によるアイヌと石器時代人に関する主要論文、坪井の指導のもとに幅広い研究活動を行なった八木柴三郎の代表的な発掘報告と著書、軟部人類学の分野を開拓した足立文太郎の主な和文論文、鳥居龍蔵の初期の総合人類学的な海外調査の報告と日本人の成り立ちに関する論説、明治以来の石器時代人観に転換を迫った濱田耕作による初期の論文と遺跡発掘報告、はじめて日本人の地方差研究に取り組んだ松村瞭の論文と、国際的に評価の高かった編著書『人種名彙』、大正から昭和にかけて長く活躍し石器時代人から現代人への進化を説いた長谷部言人の著書と論文、貝塚人骨の統計学的な研究を行なって独自の日本人生成論をまとめた清野謙次の著書と報告、論文類、そして最終巻には昭和期に入って活動を開始した若手研究者たちの、戦前における日本列島人研究（須田昭義など）、先史学研究（山内清男など）、海外研究（金岡丈夫など）の中から主な論文や総説を選んで収録している。

今日の人類学の基礎を築いた先学の業績の精華が、このような形で手近に参照できるようになったことは、後進にとってこの上ない喜びである。



# 日本の人類学文献選集 近代篇 全8巻

山口 敏 (国立科学博物館名誉研究員) 編・解説

- 第1巻 坪井正五郎・E.S.モールズ ほか 定価16,000円 ISBN4-87733-292-8
- 第2巻 小金井良精 定価11,000円 ISBN4-87733-293-6
- 第3巻 八木契三郎・足立文太郎 定価13,000円 ISBN4-87733-294-4
- 第4巻 鳥居龍蔵・濱田耕作・松村瞭 (一) 定価12,000円 ISBN4-87733-295-2
- 第5巻 松村 瞭 (二) 定価10,000円 ISBN4-87733-296-0
- 第6巻 長谷部言人 (一) 定価11,000円 ISBN4-87733-297-9
- 第7巻 長谷部言人 (二)・清野謙次 定価11,000円 ISBN4-87733-298-7
- 第8巻 昭和前期の研究者 定価11,000円 ISBN4-87733-299-5

A5判/上製函入/クロス装/本文クリーム中性紙

揃定価95,000円(税別) ISBN4-87733-300-2(セット) 平成17年10月25日刊行

# アジア・太平洋地域 民族誌選集 全36巻

山下晋司・中生勝美・伊藤亞人・中村 淳編

第一回配本品切 全36巻  
揃定価四〇二、〇〇〇円(税別)

- 南方文化講座 歴史篇
  - 三省堂南方文化講座刊行係編/昭和18年
  - 南方文化講座 日本南方発展史篇
  - 三省堂南方文化講座刊行係編/昭和19年
  - 南方文化講座 民族と民族運動篇
  - 三省堂南方文化講座刊行係編/昭和19年
  - 大南洋 文化と農業
  - 太平洋協会編/昭和16年
  - 太平洋圏 民族と文化 上巻
  - 太平洋協会編/昭和19年
  - ニューカレドニア・その周辺
  - 太平洋協会編/昭和19年
  - 第一回全6巻 揃定価八〇、〇〇〇円
  - 南方の芝居と音楽
  - 松原晩香著/昭和18年
  - 南方民族図譜
  - 厚生省研究所人工民族部編/昭和19年
  - 大東亜民族誌
  - 東亜経済懇談会編/昭和19年
  - 南方諸民族事情研究
  - 国策研究会著/昭和18年
  - 太平洋民族誌
  - 松岡静雄著/大正14年
  - ミクロネシア民族誌
  - 松岡静雄著/昭和2年
  - インドネシアの民族医学
  - 清野謙次著/昭和18年
  - 海南島黎族の社会組織
  - 岡田謙著/昭和19年
  - 海南島黎族の経済組織
  - 尾高邦雄著/昭和19年
  - 民族調査資料 第一輯/第五輯
  - 海南海軍特務部政務局/昭和17年
  - マライシアに於ける稲米儀礼
  - 宇野円空著/昭和19年
  - 第二回全8巻 揃定価一一〇、〇〇〇円
- 南国記
  - 竹越与三郎著/明治43年
  - 南洋風土記
  - 安藤喜一郎著/昭和8年
  - バタ族の社会と生活
  - 井上吉次郎著/昭和17年
  - ジャワ社会の研究
  - 松浦靖著/昭和19年
  - 東印度の文化
  - 齊藤正雄著/昭和15年
  - 比律賓民族誌
  - 三吉朋十著/昭和17年
  - 比律賓の宗教と文化
  - 三吉朋十著/昭和17年
  - 比律賓の土俗
  - 三吉朋十著/昭和17年
  - 比律賓群島の民族と生活
  - 仲原善徳著/昭和17年
  - 南方民族の婚姻
  - 増田福太郎著/昭和17年
  - 台湾の宗教
  - 増田福太郎著/昭和14年
  - 原始刑法の探求
  - 増田福太郎著/昭和19年
  - 東亜民族要誌資料 第一輯/第四輯
  - 帝国学士院東亜諸民族調査室編/昭和19年
  - 東亜民族名彙
  - 帝国学士院編/昭和19年
  - 第三回全8巻 揃定価一〇八、〇〇〇円
  - 蒙古地誌 総論、史略、地理
  - 蒙古地誌 行政
  - 蒙古地誌 殖産興業(1)
  - 蒙古地誌 殖産興業(2)
  - 蒙古地誌 運輸交通、宗教、教育、風俗
  - 蒙古地誌 各旗通志、都邑概況、結論
  - 柏原孝久・浜田純一共著/大正8年
  - 第四回全6巻 揃定価一一四、〇〇〇円
- 満洲民族学会会報
  - 満洲民族学会編/昭和18、19年
  - 満洲国道院正字会の概要
  - 小竹一郎著/昭和18年
  - 満洲史観
  - 黒田源次著/昭和18年
  - 人口統計より見たる満洲国の緑族複合状態
  - 宮川善造著/昭和15年
  - 満洲民俗考
  - 満洲事情案内所編/昭和15年
  - 満蒙民族志
  - 満鉄経済調査会編/昭和11年
  - 満洲宗教誌
  - 満洲風土記 上巻
  - 満洲風土記 中巻
  - 満洲日報社編/昭和19年
  - 満洲日報社編/昭和19年
  - 経遠に於ける蒙古民族 一生活と習俗一
  - 内藤潮邦著/昭和18年
  - 満洲に於ける鄂倫春族の研究
  - 治安部参謀司調査課編/昭和14年
  - ソロン族の社会
  - 上牧瀬三郎著/昭和15年
  - 中支に於ける民間信仰の実情
  - 興亜院華中連絡部編/昭和17年
  - 北京回民小本借貸に就いて
  - 小林宗三郎著/昭和16年
  - 西北羊毛貿易と回教徒の役割
  - 幾志直方著/昭和15年
  - 満洲国の回教調査資料
  - 山本登著/昭和16年
  - 北支那回教事情
  - 満鉄北支経済調査所/昭和15年
  - 第五回全8巻 揃定価九〇、〇〇〇円